

令和6年度栗東市高齢者保健福祉推進協議会(第1回) 議事要旨

1. 日時	令和6年10月10日(木) 9:30~11:00
2. 場所	栗東市役所 2階 第1会議室
3. 出席者	＜委員＞9名 平田委員、堀委員、藤ノ木委員、清水委員、辻委員、渡辺委員、田内委員、青木委員、廣瀬委員
4. 次第	1 開会 2 市民憲章の唱和 3 あいさつ 4 協議事項 (1)第8期栗東市高齢者福祉計画・介護保険事業計画の実績について (2) 第9期栗東市高齢者福祉計画・介護保険事業計画について (3) 介護保険事業計画 施設整備について 5 その他 6 閉会

＜要旨＞

○開会

○市民憲章の唱和

○あいさつ

○開催状況の報告

総委員数12名のうち、9名出席。

栗東市高齢者保健福祉推進協議会設置規則第6条第2項の規定により、会議の成立を報告。

＜議事＞

(1)第8期栗東市高齢者福祉計画・介護保険事業計画の実績について

資料1

(委員)

2点質問がある。一つ目に、居宅療養管理指導について。令和4年度の計画では202件であったが、実績が409件であり、薬剤師の利用が増えた影響であったと報告があった。しかし、令和6年度の計画値が258となっており、令和5年度の実績は一時的な要因により増えたということなのか。

二つ目に、介護老人福祉施設(特養)の実績について計画よりも実績が少なくなったことについて。一部の特別養護老人ホームが88→64床に縮小して運営していることが影響しているとの説明があったが、その減少数以上に計画値よりも少ない。特養は利用者待ちで、利用したくても利用できないというイメージだったが、計画値よりも少なくなっている理由は。

(事務局)

一つ目の質問について、第9期計画を作成した時点では、R5の実績値はまだわかっていない状況であった。R4以前の実績や国の試算に基づいて算出している関係で、R5の実績値と乖離している。

(委員)

令和5年度に想定外の倍以上に増えた理由は。また、6年度もその傾向は続く見込みなのか。

(事務局)

これまで、お薬の管理についてはその多くが訪問看護を利用して実施されてきたが、その役割について薬剤師の方に担ってもらえればと、市と薬剤師会とで協力し、ケアマネジャー向けの研修を実施してきた。また、薬剤師会においても薬剤師の役割を啓発されてきた。そのことで、ケアマネジャーの意識も変わり、(居宅療養管理指導における)薬剤師の利用増につながっていると思われる。そのため、令和5年のみの増加ではなく、今後も増加することが予測される。

(事務局)

二つ目の質問について、先ほど説明した減床の影響だけではなく、施設入所者の死亡が多かったことも原因ではと考えている。要介護5の認定者が減少しており、要介護5の減少は恐らくではあるが、死亡によるものと推測している。

(委員)

死亡されれば、入所を待っておられる方が多く、待っておられる方が入所されるのでは。

(事務局)

施設が空いたときに、待機者に連絡したとしても、申し込んではいたがたちまち今すぐの入所は必要ないと断られることもある。待機申込している人がすぐに入所したいと思っている人ばかりではない。将来を見込んで申込をしている人も多い。

(委員)

ということは、現状では空きがあるということか

(事務局)

今年度5月に開所した29床の特別養護老人ホームも、開所してから1か月で入所が決まったのは10名以下。現時点では満床。在宅困難者である実質的な待機者は解消すると推定される。また、減床していると説明していた施設も今年度当初からは88床に戻している。

(委員)

介護職員が確保できないから減床していたのか

(事務局)

そのとおり。令和6年度からは職員が確保できたから88床に戻している。

(委員)

新しく建つ特別養護老人ホームはユニット型(個室)が多い。ユニット型の場合、料金がなくて支払えない。ユニット型では月17~18万ほど。22~23万円のところもある。念のため、申込はするが、実際はお金の面で入れないことが多い。

(委員)

多床室の施設は人気があると思うが。

(事務局)

多床型は料金が安いので人気がある。

(委員)

多床室の特別養護老人ホームを増やしたほうがよいのでは。

(事務局)

新たに特別養護老人ホームを設置しようとする場合、多床室は建設できないと思われる。利用者のプライバシーや自由を守るためにユニット型となる。

(委員)

ユニット型施設について、低所得者でも入所できるような施策を考えていく必要があるのでは。

(事務局)

現状、非課税世帯にはなるが、施設入所費用の減免措置などは実施しているが、それでも不足しているということであれば、検討してく余地があると思う。

(委員)

通所介護や訪問介護などについて、栗東市内で受け入れできる枠、キャパシティを記載してもらえると良いのでは。全体の受け入れ枠に対してどれだけ利用しているのかがわかると、今後、新たな事業所の指定は必要なのか、必要でないのか等わかってくる。

(事務局)

具体的な受け入れ人数は市も県も把握できていない。今年度栗東市内で訪問介護事業所ができた。地域密着の通所介護は、一事業所が地域密着型から広域型へ転換した。

厳密な受け入れ人数や、ニーズの把握については課題と考えている。

資料2

(委員)

P1 1-1-③管理栄養士等の人材派遣で実績が0となっているが、こちらの派遣はいきいき百歳体操の利用の方に向けてのものになるのか。

(事務局)

ここでの栄養指導については、いきいき百歳体操に参加の人で、低栄養傾向のある人に対し訪問指導ができると案内しているもの。ある程度百歳体操の場でのアドバイスで、訪問まではいらないと言われるので実績がない状況。

(委員)

p22 6-1) 介護人材の確保をおおむねできているという結果で、意外に多いなという印象。現場の感覚では非常に厳しいと実感している。p17の介護人材の育成であがっているが、一時の研修ではなく、人材確保のため中長期的な市独自の取組みをしてもらえればと思う。

(事務局)

栗東市においてはケアマネの不足が一番の課題。介護職については国が処遇改善を打ち出したが、ケアマネを置き去りにされている。ケアマネジャーへの支援策を検討している。また、介護職員初任者研修補助事業について実績があまりない状況であり、他市も参考にもう少し効果的な事業にできるようにと考えている。

(2) 第9期栗東市高齢者福祉計画・介護保険事業計画について

資料3

(委員)

P7 3-3)-①について、高齢者を対象にと記載があるが、障がいのある人についても対象という記載も必要では。

(事務局)

障がいのある人については、障がい者福祉計画の中において記載をしている。計画については、ホームページに掲載している。

(委員)

P7 3-4)-① くりちゃんバス・タクシーのバスフォローアップ調査とは？

(事務局)

利用者の実態を把握するなかで、地域の交通改革に活用するため、調査をしている。土木交通課において地域公共交通計画の作成に向けて、様々な調査をしているところ。

(委員)

くりちゃんバスが伊勢落まで来ていない(隣の林まではきているが)。高齢化が進んでおり、自分で買物等には行きたいため、くりちゃんバスを延伸してほしいと言われている。

(事務局)

利用者の実態を調査したなかで、何が公共交通にふさわしいのか土木交通課にて策定している最中である。

(3) 介護保険事業計画 施設整備について

資料4、5

意見等なし

その他事項はなし